

# 大分駅の激変に驚く

## 大学21回生

平成28年11月9日・10日に昭和44年入学の同期会が開催され、九州はもとより、関東圏や名古屋、大阪などから34人が集まった。卒業年度にはバラつきがあるが、入学年度が昭和44年の者たちの集まりで、還暦の時に集まって以来2度目の同期会になる。

当初はお盆前の開催で準備を進めていたが、4月に大地震があり先延ばしして11月の開催となった。11月9日のセンチュリー



今回も大分センチュリーホテルで開催

ホテルでの懇親会では、参加者全員がユーモアを交え近況を報告した。まだまだ現役で仕事をしている者とりタイヤした者は半々位だ。髪は白くなったり無くなったりして、学生時代からは大きく様変わりしたが、当時の話に花が咲き、お互い40年以上もタイムスリップして盛り上がった。卒業以来一度も大分を訪れたことがない人も多く、大分駅とその周辺が激変したことに驚いていた。

二次会はミュージックバーを借り切ったのだが、誰一人歌うことなく話に夢中になって過ごした。ここでお開きとなったが、数人は連れ立って昔によく通った屋台（当時）に行つて旧交を温めたようである。

翌日は、自分の行きたいところを決めていた者、ゴルフをする者、幹事が用意した観光地を廻る者に分かれて行動した。

ゴルフは白佐君がお世話をし、竹中カントリークラブで2組8人の参加で行った。結果は溝辺修二君が90のスコアで優勝した。観光は参加者が3人と少なかつ

たが、葉真寺君が自分の車を提供して、宇佐神宮、両子寺、富貴寺、浄瑠璃寺、真大堂、重光葉資料館とたくさんの名所を訪れ、秋の国東を満喫したようだ。

今回で2度目の大分での同期会の開催となったので、次は別の場所にしようということで、福岡での開催を決めた。古希の祝いを兼ねての開催になりそうだ。

▼出席者（敬称略）

阿南仁、安部輝夫、池松眞善、

岩田正己、岩釣千三、岩本廣、江口広幸、大島良一、大本雅士、蒲谷光明、川野勇清、久保恵一、久保正次、窪田章八郎、佐野信庸、周藤譲、白佐敏朗、陣内義和、高井道晴、高橋成行、瀧口眞作、田中典明、土井誠二、中村文俊、中邑敬一、野中千尋、深見（師井）昭雄、前田信夫、松本耕太郎、溝部修二、桃川幹夫、葉真寺章三、吉田文明、吉永真一

（高井道晴 記）